

2026年度 北海道大学大学院  
文学院修士課程入学試験（前期）

試験科目名	専門試験（ 映像・現代文化論 ）
出題の意図	<p>問題Ⅰ 映像・現代文化、日本近現代文学・思想に関する基本的な知識を問う。</p> <p>問題Ⅱ 映像・現代文化、または日本近現代文学・思想に関する論文を読解し、自分の意見を論述することにより、専門分野に関する理解力と表現力を問う。</p> <p>(A) 日本近代文学における「クィア理論」「クィア批評」に関する問題</p> <p>(B) 映画の撮影技術としての「動線」に関する問題</p>

2026 年度  
北海道大学大学院文學院修士課程入学試験問題（前期）  
（専門試験） 映像・現代文化論 全 8 枚のうち 1 枚目

この試験では、試験問題 8 枚、解答用紙 4 枚を配付する。

- ・ 解答は問題 I と問題 II について、別々の解答用紙に記入すること。
  - ・ 問題 II は、A・B の中から一つを選んで解答すること。
- 

問題 I

次の 1～6 の中から二つを選択し、選択番号を明記した上で解答しなさい（各 400 字程度）。

1. 日本近代文学における言文一致の成立について説明しなさい。
2. 火野葦平の兵隊三部作について、プロパガンダの観点から考察しなさい。
3. 「インターセクショナリティ」の概念について、女性作家の作品を例に挙げて説明しなさい。
4. ヌーヴェル・ヴァーグ以前のフランスの映画作家を一人挙げて、その特徴を説明しなさい。
5. 蓮實重彦の映画批評の特徴について論じなさい。
6. 2000 年代以降のハリウッドの「スーパーヒーロー映画」の推移と現状について論じなさい。

問題Ⅱ A

次の文章は武内佳代『クィアする現代日本文学 ケア・動物・語り』（青弓社、2023年）の「はじめに」の一節である（設問の都合により、一部を省略した）。（1）この文章の内容を、要約しなさい（250字程度）。（2）問題文との関連性に留意しつつ、クィア批評の立場から具体的な作家・作品を挙げて論じなさい（800字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 武内佳代『クィアする現代日本文学 ケア・動物・語り』青弓社、2023年、12-18頁





問題Ⅱ B

次の文章は塩田明彦『映画術 その演出はなぜ心をつかむのか』（イースト・プレス、2014 年）の一節である（設問の都合により、一部省略した）。(1) この文章の内容を、要約しなさい（250 字程度）。(2) 著者が語る「動線」について、問題文との関連性に留意しつつ、具体的な作品を挙げて論じなさい（800 字程度）。ただし、研究計画書で取り上げた作家・作品との重複はできるだけ避けること。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学事務部教務担当の窓口で閲覧してください。

出典 塩田明彦『映画術 その演出はなぜ心をつかむのか』イースト・プレス、2014 年、9-19 頁





